

2015/07/31 時間の豊かさ  
2015/07/30 動物供犠停止か？ ガディマイ祭  
2015/07/29 ハコモノ好きのネパール人  
2015/07/28 仮設教室で憲法授業，ネパールの生徒たち  
2015/07/27 憲法公布日合意するも，シラケ後退ムード瀰漫  
2015/07/26 マチェガオン付近の震災，散策にさして支障なし  
2015/07/25 パタン震災，観光にさして支障なし  
2015/07/24 震災深刻(6): ブンガマティ  
2015/07/23 震災深刻(5): コカナ  
2015/07/23 余震におののく人と犬  
2015/07/23 儀式かやらせの憲法公聴会  
2015/07/22 震災深刻(4): パンガ  
2015/07/21 震災深刻(3): ムルク付近  
2015/07/20 憲法反面教師としての日本  
2015/07/20 震災深刻(2): ラニバン付近  
2015/07/19 戦争法案可決，ネパールでもトップ報道  
2015/07/18 震災深刻(1): バラジュ付近  
2015/07/17 バクタプル近郊山村の震災瞥見  
2015/07/16 カトマンズ市街の震災「軽微」，観光支障なし  
2015/07/15 太陽光蓄電池式LED照明，激増中  
2015/07/15 キルティプル南西低地，少し被害  
2015/07/14 震災なきがごときカトマンズ  
2015/07/14 タイ南部テロと厳戒スワンナプーム空港  
2015/07/09 京都の米軍基地(75): 議員質問の制限  
2015/07/08 グルメ鳥獣との攻防  
2015/07/07 制憲特急，快走か迷走か  
2015/07/03 「新しい国へ」，オノゴロ島から？  
2015/07/01 CDC 憲法草案受理，制憲議会で審議開始

## 時間の豊かさ

いつものことだが，ネパールの伝統的集落，たとえばここキルティプルを歩いていると，前資本主義社会の豊かさに圧倒される。

キルティプルの丘の上の集落は，本当に不思議な社会だ。あちこちで人々が手で糸を紡ぎ，手織りで布を織っている。絨毯の手組もやっている。そうかと思えば，いつ売れるのか，売る気があるのか見当もつかないような彫刻置物屋さんもある。そして，商店。狭い丘の上の小さな路地裏にま

で、いたるところにある。いったい何人を相手に商売をしているのだろう？ 1日に客が何人来るの  
だろう？

キルティプルの丘の上の商工業は、資本主義の観点からすれば、およそ不合理、経済合理性が  
まるでない。もし誰かが「資本主義の精神」に目覚め、利潤の合理的追求を始めるなら、これらの  
商店や家内手工業は、あっという間に淘汰され、消えてしまうだろう。

が、そうはならない。いつまでも同じ。時はカネに変換されることなく、丘の上にふんだんにあふれ  
かえている。とにかく、みな暇そうだ。あちこちにたむろし、ボケーとしたり、おしゃべりしたり。無  
為の時間ほど、人生にとって贅沢で豊かなものはない。



■豊かな時間の中の人々／野の花。牛も山羊も食わないらしく、いたるところ生い茂っている。  
無用の美。

谷川昌幸(C)

2015/07/31 at 10:09 カテゴリー: [経済](#), [文化](#), [旅行](#) Tagged with [キルティプル](#), [資本主義](#), [時間](#)

## [動物供犠停止か？ ガディマイ祭](#)

ネパール各紙やロイターなどの報道によれば、ガディマイ祭動物供犠が停止されるらしい。ガディ  
マイ寺院運営基金は公式に停止とは発表していないらしいが、動物愛護団体の圧力に屈し、事実  
上の停止に追い込まれたようだ。

記事では、インドやネパール国内の反対にも言及されているが、国際的な反対運動の中心は実際には欧米の「動物の人権と福祉」擁護諸団体である。実にケシカラン。許せない。ネパールの動物供犠派は、もっと怒るべきだ。(以下、これまで幾度か述べてきたことで繰り返しになるが、腹の虫がおさまらないので、繰り返す。)

世界最大の動物供犠を伴うガディマイ祭には、差別、衛生、ネ印国境管理、商業化(見世物化)など、様々な問題があることは事実であり、改善は必要であった。これはガディマイ祭実行委員会もネパール政府も認めていた。が、そのことと、動物供犠そのものの是非とは本質的には別の問題だ。

欧米「動物の人権福祉」擁護諸団体も信奉するはずの多文化主義からすれば、動物を一切殺さない文化もあれば、近代的屠殺工場で苦痛のない「人道的」な方法で動物を衛生的に処理し、その肉を食べる文化もありうる。ならば、動物の生命を畏敬するが故に、神に動物をささげ、神の祝福をえたいうで、その肉を食し、皮や骨を最大限利用しつくすという文化もあってしかるべきだ。

そもそも、自らの手で水牛や山羊や鶏の首を切り、生き血をあびつつ、動物たちの生命により生かされていることを神に感謝することの、いったいどこが残酷なのか！

これに反し、現代社会では、動物たちは大量管理飼育され、消費者の目に触れることなく出荷計画通り整然と近代的屠殺工場に運び込まれ、機械的・衛生的に処理され、肉塊とされ、そして美しくパック詰めされ、商品として百貨店やスーパーに並べられる。その肉を、現代の消費者は買って食べる。が、これでは肉を食べても、他の動物の命を食べているという実感は持ちにくく、したがって罪悪感を感じることもなく、自分を生かしてくれている動物への心からの感謝の念が生じることもない。動物の尊厳を踏みにじり、動物をモノ扱い、商品扱いしているのは、いったい誰なのだ。

むろん、これはいわれなき非難攻撃を受けるから、こう反撃せざるをえないのであって、もし「動物の人権福祉」擁護諸団体が彼らだけでその生き方を選び実践しているのであれば、彼らのその生き方に動物供犠派が外からイチャモンをつけるようなことはない。多文化主義であれば、当然、そうあるべきだ。

ところが、「動物の人権福祉」擁護諸団体は、自分たちだけで満足できず、自分たちの生き方、自分たちの文化を絶対視し、それを他文化に宣教し、押し付けようとする。余計なおせっかい、バカなことはするな！

ネパールの動物供犠派の人々には、欧米文化帝国主義者どもの偽善的文化侵略を断固撃退し、神聖な動物供犠を守り抜いていただきたい。なによりも動物の尊厳を守るために！

▼旧王宮寺院前でも動物供犠が行われてきた。今年はどうなるか？(7月29日撮影)



【参照】[動物供犠](#) [ガディマイ](#)

谷川昌幸(C)

2015/07/30 at 12:58 カテゴリー: [宗教](#), [文化](#), [旅行](#) Tagged with [ガディマイ](#), [動物愛護](#), [動物供犠](#)

## [ハコモノ好きのネパール人](#)

ネパールの人々は、日本人以上に、ハコモノが好きのように思われる。いたるところに装飾過多のケバケバしい建物が立っている。よくまあ、こんな派手な建物で生活や仕事が続けられるものだと思心する。

が、個人や私企業は好き好きだから、それでよいとして、問題は公金を使って建てられる建物。やたら立派だ。カトマンズ郡裁判所など、豪華ホテルか何かと見まがうばかり。

私の滞在ホテルの丘の下にも、キルティプル市庁舎新築工事中。とにかく熱心。夜明け前から日没後まで、休む暇なくやっている。驚異的勤勉。なぜそんなに急ぐのか？

キルティプルには、丘の上に市庁舎がある。地震で破損したというが、素人が見た限りでは、損傷は見当たらない。たとえ多少損傷があったとしても、修理できないほどのことではないような気がする。

いまネパールは震災復興のさ中。建設機材も建材も建設作業員も、何もかも不足している。でも、そんなことは、お構いなし。新庁舎建設にまっしぐら。きっと、豪華庁舎になるのだろう。楽しみだ。

#### ▼現庁舎



#### ▼新庁舎建設現場



谷川昌幸(C)

2015/07/29 at 09:45 カテゴリー: [社会](#), [行政](#) Tagged with [キルティプル](#)

## 仮設教室で憲法授業, ネパールの生徒たち

震災で校舎が損壊したネパールの学校では、テントや竹製の仮設教室をつくり、急場をしのいでいる。テントにせよ、竹を柱と壁に使用した竹製教室にせよ、寒暑、風雨などに十分対応できず、また音も筒抜けなので、授業はやりにくい。日本では想像もできないほど劣悪な授業環境だ。

そのような学校の一つが、カトマンズのスリヨダヤ校。地震で本校舎が全壊、別棟の小さな数教室を除き、全教室を失った。そのため、USAID 等のテント提供を受け、校庭にテント仮設教室をつくり、そこで授業を続けている。

そのスリヨダヤ校で、先日、憲法制定議会の2議員を招き、いま最終段階にある新憲法をテーマに、特別授業が行われた。私は参加できなかったが、[同校 FB の写真](#)からは、生徒たちが出席議員や先生たちを前に、盛んに意見を述べている様子がうかがわれる。

**全壊校舎跡のテント教室で、祖国の未来を託す新憲法について存分に議論する——なんと健気なことか！**

ひるがえって、日本。冷暖房完備の快適な教室。雨も吹き込まなければ、蚊や蠅に悩まされることもない。ネパールの生徒から見れば、天国のような日本の学校で、いまどのような教育が行われているのか？ どのような教育に変えようとされているのか？ 日本で、憲法や国家の基本問題について、先生や生徒たちが自由に学び議論する権利は保障されているのか？

スリヨダヤ校には、長年にわたって交流のある仲間たちと一緒に、ささやかながら再建支援を行っている。(参照:[ネパール 震災支援 ムスムス](#))

#### ▼全壊校舎跡とテント仮設教室(7月15日)



#### ▼テント仮設教室で憲法特別授業(同校 FB より)





【参照】スリヨダヤ校: [フェイスブック](#) [ホームページ](#)

谷川昌幸(C)

2015/07/28 at 16:38 カテゴリー: [国際協力](#), [憲法](#), [教育](#) Tagged with [震災](#), [地震](#)

## [憲法公布日合意するも、シラケ後退ムード瀰漫](#)

制憲議会(CA)ネバン議長が7月26日、新憲法の8月16日公布を提案し、これにNC,UML,UCPN,MJF-L(MDRF-D)の主要4党が合意した。これで、8月16日新憲法公布の可能性が一気に高まった。

ところが、憲法制定は、街でも新聞でも、全く盛り上がっていない。マオイスト分派によるバンダ(ゼネスト)が7月25日にあったが、これはいつものこと、休日が1日増えただけ。一言でいえば、憲法シラケムード、どうぞご自由に、といった感じだ。

ところが、これが曲者。市民、学生らのシラケ(無関心)の拡大を良いことに、以前にも指摘したように、憲法公聴会や憲法提言募集を利用した一種の「やらせ」ないし世論操作が行われている。

参照: [儀式かやらせの憲法公聴会](#)

各紙報道によれば、憲法公聴会・憲法提案募集において出され、CAが最大限尊重すべきだとされる主要意見は、次のようなものである。

- (1)「世俗」「世俗的」は使用せず、「宗教の自由」の用語を用いる。[これにより布教活動制限の存続の可能性がある。]これと関連して、「ヒンドゥー国家」復帰要望も強い。
- (2)州の数の削減。
- (3)比例制当選の最低得票率設定。

他にも様々な意見が出されているが、国家の基本構造にかかわるのは、なんといってもこれらの要望である。そして、主要4政党は、これらの意見を最大限尊重する努力をすると約束している。

一見明らかなように、これは旧体制に向かったの大幅後退である。善悪は別にして、現象的には大幅な揺り戻し。しかもそれが、制憲議会選挙や制憲議会での議論といった公明正大な方法ではなく、透明性も公平性もまるでない憲法公聴会・憲法提案募集といった形で進められつつある。

さらに、それに輪をかけているのが、不透明で怪しい、正式憲法案作成までの手続き。

#### ■憲法草案の CA 採択:6月30日

⇒ 憲法草案への国民意見聴取:7月20, 21日

⇒ 「市民関係・世論聴取委員会」が「国民の意見」をまとめ、報告書を CA に提出。

⇒ CA が、「国民の意見」報告書を「政治的対話・合意形成委員会(PDCC)」に送付。

⇒ PDCC が「国民の意見」報告書を参照しつつ憲法草案を修正し、これを CA に提出。

⇒ CA がこれを受理し、それを「憲法起草委員会」へ送付。

⇒ 「憲法起草委員会」が、それを(おそらく必要な修正を加え)憲法法案として CA に提出。

⇒ CA が、この憲法法案を三分の二の多数を持って可決。

⇒ CA 議長が可決憲法法案を認証。

⇒ これを大統領が憲法として公布。

まるで大きな雲の中。そして、その雲が過去に向かって流れつつある。世論はつくられる。つくられる世論の中にいる人々は、大きな全体としての流れに気づかない。

ごく限られた人々にすぎないが、ネパールで知識人らと話していると、多かれ少なかれ論調が変化しているのに気づく。本人らは気づいていないかもしれないが。



■ネパールを見守るヒマラヤ(7月26日夕、キルティプルより)

谷川昌幸(C)



## マチェガオン付近の震災，散策にさして支障なし

23 日午後，暇つぶしにマチェガオン付近をぶらぶらしてきた。下記のコース。

キルティプル⇒⇒バトケパティ⇒⇒ドウドポカリ⇒⇒マチェガオン⇒⇒タウケル⇒⇒サルヤンスタン  
⇒⇒キルティプル

ちょっと長いが，特にドウドポカリ～マチェガオン間は，乾季にはマナスルやランタンの山々が見えるし，カトマンズ市街方面の景色もよい。山麓沿いの，車もバイクも少ない絶好の散歩コース。

数日前から天候が変わり，初秋のような爽やかな風。途中の茶店でお茶を飲んだりしながら，のんびり半日を過ごした。

この小路沿いにも古いレンガ積みの家屋があちこちにあり，山麓の風景とよくマッチしていたが，地震でかなり倒壊してしまった。特に，古い村であるマチェガオンには，レンガ造りの趣のある家が多かったが，地震で相当数が倒壊した。残念だが，自然には手向かえない。

マチェガオンからタウケルに向かって緩やかに下っていく小路からは，両側にレンガ工場が見える。特に情緒があるのが，乾季の花と霧の季節，いつまで見ても飽きない。

ところが，そのレンガ工場の煙突が，地震で折れてしまった。これでは情緒半減。レンガ工場は，半壊煙突でも震災後復興のためフル操業，周囲にはレンガ山積みだ。この景気なら，煙突など，すぐ直すだろう。

環境上問題もあろうが，霧に霞むレンガ工場の煙突は，菜の花の田園によく似合う。

### ▼伝統的家屋健在





■竹製の門

▼被災家屋





■寺院の塔上部も破損

▼レンガ工場の折れた煙突



## ▼キルティプル遠望



■ 稲田の白点は白鷺(のような鳥)

### 【参照】

[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし\(2015-07-16\)](#)  
[震災深刻](#)

谷川昌幸(C)

2015/07/26 at 12:45 カテゴリー: [文化](#), [旅行](#) Tagged with [マチェガオン](#), [震災](#), [地震](#)

## [パタン震災、観光にさして支障なし](#)

パタン旧市街は、まだ古い家がたくさん残っているので、地震被害は、カトマンズ市街に比べ、はるかに大きい。いたるところで家屋がツツカイ棒で支えられている。見るからに痛々しいが、しかし、それでも倒壊は思ったより少ない。

寺院はいくつか倒壊したが、すでに瓦礫はきれいに片づけられ、見て歩くに特に大きな支障はない。寺院周辺の趣のある古い店や喫茶食堂の多くも健在。のんびり歩きながら、古き良きネパールを存分に楽しめる。

街では、いつものように山鉾を立て、祭りを楽しんでいた。収穫と雨の神様、マツチェンドラナートの祭らしい。ブンガマティのはずれに大きな山鉾が立っていたが、パタンのこの小ぶりの山鉾はそれを迎えに行くものという。地震被害で巡行は延び延びになっているが、それでも修理し何とか祭りをやろうとする。家々をツツカイ棒で支えつつ、祭りは楽しむ。やぼな自肅はなし。粋だ。

というわけで、パタン観光は、必要な注意さえしておれば、特に危険ということはない。危険性から言えば、バイクや車の方が、何倍も危険だ。傍若無人、凶暴とさえ言ってもよい。ネパール観光は大いに楽しみつつも、バイクと車には、くれぐれもご用心いただきたい。

▼ツッカイ棒で支えられる家屋や寺院



▼伝統的家屋／寺院修理



▼パタン・ダーバー広場





▼1階お土産・2階食堂喫茶／果物屋さん



▼マツチェンドラナート山鉾



2015/07/25 at 15:04 カテゴリー: [文化](#), [旅行](#) Tagged with [パタン](#), [マツチェンドラナート](#), [震災](#), [地震](#)

## [震災深刻\(6\): ブンガマティ](#)

ブンガマティは、コカナの南方2~3Kmのところにあるネワールの古い村ないし町。コカナ~ブンガマティ間は、つい最近まで田畑の中の田舎道であり、ところどころに伝統的な彫刻や手織りやタンカ工房があり、それらを冷かしながらぶらぶら散歩するのに最適のコースであった。いまでは、少し家屋が増えたが、それでものどかな田舎道に変わりなく、地震以前は、外国人旅行者ともときどき途中で出会ったものだ。それが、今回は、一人も見かけなかった。

コカナから歩いてブンガマティに入ったとたん、あまりの激しい崩壊に、茫然自失。爆撃を受けた町のような。コカナ以上の惨状。

ブンガマティは、趣のある調和のとれた美しい町だったのに、この損壊の状況では、復元は難しいであろう。

それでも、驚くべきは、町の人々。他の被災地でもそうだったが、ここブンガマティでも、被災家族が、ごく自然な当然の作業をしているかのように、黙々と損壊した自宅の後片付けや取り壊しをしていた。状況が絶望的なだけに、ネパール庶民の不屈の精神と力強さを深く印象付けられた。

### ▼震災以前のブンガマティ

[コカナとブンガマティ](#) ブログ内検索: [ブンガマティ](#)

### ▼損壊家屋







■周囲の家屋ほぼ全壊







▼仮設住宅



▼寺院健在



■記憶では数年前修理済み。



■寺院内は避難所として使用。

【参照】[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)(2015-07-16)

谷川昌幸(C)

2015/07/24 at 17:40 カテゴリー: [自然](#), [文化](#), [旅行](#) Tagged with [ブンガマティ](#), [震災](#), [地震](#)

## [震災深刻\(5\): コカナ](#)

コカナは、パタンの南方6~8km のところにあるこじんまりしたネワールの村ないし町。古いレンガ造りの家並が長い時の流れの中でじっくり熟成し、落ち着いた独特の雰囲気醸し出していた。世界文化遺産候補。

そのコカナが、今回の地震で大きく損壊した。コンクリート使用建物は、少々古くてもすべて無事のようにだったが、レンガ積みの古い家は多くが全壊または半壊していた。3か月経っているので、倒壊した家々の壁は元の土に戻り、通路や宅地に土手か小山のようになって堆積している。しばし呆然、涙なくて見られない光景だ。

崩壊家屋の間の狭い通路には、ショベルカーが入り、家々の残骸を掬い取り、ダンプカーで次々と運び出していく。鉄筋も固いコンクリート片もほとんどないので、作業はみるみる進んでいく。文化は熟成に長年月を要するが、破壊は一瞬だ。

古い家並が残っているところもあるにはあるが、これだけ多数の家屋が損壊してしまうと、もとの姿に戻すのは困難であろう。コカナには、援助機関が多数入り、テントや仮設住宅の設置など、活発な支援活動を展開している。

▼震災以前のコカナ

[コカナとブンガマティ](#) ブログ内検索:[コカナ](#)

▼崩壊をまぬかれた古い建物



▼崩壊家屋／後片付け／崩壊家屋撤去





▼仮設住宅と救援活動





■ワールドビジョンは、掲示によれば、一定の条件を付けたうえで、特に支援が必要な被災家族に現金 7500 ルピーを配布。

### ▼コカナの下方の田園風景



【参照】[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)(2015-07-16)

谷川昌幸(C)

2015/07/23 at 14:59 カテゴリー: [自然](#), [国際協力](#) Tagged with [地震](#) [震災](#), [救援](#)

## 余震におののく人と犬

いま、カトマンズで地震があった。下から突き上げる感じの揺れだったが、たいしたことなく、たぶん震度1くらいだろう。

が、地震と同時に、人々が外に飛び出したらしく、おののき叫ぶ声がキルティプルの丘の上まで地鳴りのように響いてくる。人ばかりか、犬もおののき、鳴き叫んでいる。人も犬も地震慣れしていないのだ。

これで、今夜からまた外のテントや仮設住宅で寝る家族が激増するに違いない。

【補足】(2015-07-23)

余震発生は7月22日午後10時14分。震源は、カトマンズのシンハダーバー付近。シンハダーバーは政府官庁街、その直下が震源とは、なかなか意味深だ。

谷川昌幸(C)

2015/07/23 at 01:56 カテゴリー: [自然](#) Tagged with [地震](#), [余震](#)

## 儀式かやらせの憲法公聴会

制憲議会が、とうとつに20, 21日を憲法公聴会と憲法意見募集のための休日とした。いつものことであり、勤め人は、あきれつつも、休みを楽しんでいた。

公聴会は、全国240選挙区で実施された。また、21日午後5時までに国民から提出された意見の総数は、26,496であった(Republica, 22 Jul)。

- (1)制憲議会 HP 経由 17,395.
- (2)E メール 5,560.
- (3)特別無料電話 2,415.
- (4)ファックス 923.
- (5)郵便または直接持参 153.

しかしながら、このような公聴会や意見募集にどのような意味があるのだろうか？ そもそも公聴会に出席し意見を述べるのは特定の人だし、ネットや電話などだと、本人特定は困難だ。さらに、出された意見の扱いも極めて不透明。こんな方法では、よくて儀式、悪くするとやらせとなってしまう。

国民の意見は、すでに制憲議会選挙により、はるかに公平、透明、民主的な方法で表明されている。国民は議員を「国民代表」として選出し、憲法制定を「信託」したのだ。議員は、その「信託」にこたえる義務がある。義務が果たせないのなら、辞職し、再選挙すべきだ。

言うまでもないことだが、国民には自分で直接統治する能力はないが、統治を「信託」する「国民代表」を選択する能力はある。これは古い代議制民主主義の考え方だ。が、古いからダメというわけではない。古くても良いものは良い。

ネパールは、欧米から無責任に持ち込まれる「最新の理論」に惑わされることなく、自分たちに最も適した現実的な方法を採用し、統治の安定向上を図るべきである。





■ヤチヨ(パンガ南西)

付近

谷川昌幸(C)

2015/07/23 at 01:43 カテゴリー: [憲法](#), [政治](#), [民主主義](#) Tagged with [制憲議会](#), [国民代表](#), [信託](#)

## [震災深刻\(4\):パンガ](#)

パンガの地震被害は、甚大だ。古い建物が、あちこちで崩壊している。ほぼ無傷のキルティプル丘からほんの数百メートルなのに、ここは地盤が悪いのであろう。新しい6~7階建てのペンシル・ビルも、大きく傾き、取り壊し中であつた。

崩壊した家の壁(写真参照)を見ると、レンガを積んだだけ。これでは、ちょっと揺れたら、ひとたまりもなく積み木のように崩れてしまうだろう。

しかし、それにもかかわらず、崩れていない家も、まだたくさん残っている。できるだけ早く家屋の損傷を修理し、伝統的な美しい街並みを最大限保存していただきたいと願っている。

それと、パンガでは寺院は、見た限りでは、一つも崩れていなかった。以前、通りがけると、いつもどこかで寺院補修をしていた。この寺院は、日頃から手入れが行き届いていたからかもしれない。

パンガの周辺の比較的新しい家々は全く無傷であり、人々はいつもと変わらぬ生活をしていた。ここでも、震災の地域差は極めて大きい。

▼パンガの街と寺院



■パンガ。後方はチョバル



■壊れなかった古い家屋



■寺院健在

▼損壊建物



▼ジャナセワ校・校庭の仮設住宅



【参照】[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)(2015-07-16)

谷川昌幸(C)

2015/07/22 at 12:06 カテゴリー: [自然](#), [文化](#) Tagged with [震災](#), [地震](#), [保存](#)

## 震災深刻(3): ムルク付近

カトマンズからカカニに向かう道路を少し上った右側の谷にあるゴルドウンガ、ナカンドルなどの村々の被害も大きい。

下の写真は、ムルクの現状。伝統的なレンガや土壁の家屋が、完全に倒壊している。また、豪華な鉄筋3階建ても、大きなひびが入り使用できない。

地震後3か月経過しているのに、ここムルクでも他の地区でも、仮設住宅がつくられ、家を失った人々が住んでいる。

屋根はトタン波板が多い。これは、昼間フライトなら離着陸前の上空からカトマンズ付近を見下ろすと、よくわかる。トタン板は、かつては高価で手に入りにくかったが、いまでは支援があったからかもしれないが、少なくともカトマンズとその周辺では、大量に出回っている。

柱と壁は、竹が大活躍。加工が容易なのに、強い。夏の蚊、冬の寒さなどの対策を工夫すれば、かなり快適だろう。

壁がレンガや粘土のカマボコ型仮設住宅もある(写真参照)。少々狭いが、簡潔でデザインもよい。竹製住宅より快適かもしれない。これなら、だれにでもすぐできそうだ。

それにしても、ネパールの人々は、粘り強い。家屋倒壊で絶望のどん底に落ち込んで不思議はないのに、まるで何事もなかったかのごとく、淡々と、黙々と後片付けや家事や仕事をしている人が多い。以前から厳しい生活だったからかもしれないが。

### ▼ムルクの被害状況





【参照】[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)(2015-07-16)

谷川昌幸(C)

2015/07/21 at 12:45 カテゴリー: [自然](#), [国際協力](#) Tagged with [震災](#), [地震](#), [復興](#), [支援](#)

[憲法反面教師としての日本](#)

ネパールにとって、日本は長らく、多くのことを学びうる近代化モデル国であった。特に軽武装・専守防衛政策による高度経済成長は、地政学上見習うのが難しいにせよ、いや難しいからこそ、ネパールにとっては最もうらやましい日本の政策理念の一つであった。

平和で豊かな日本へのあこがれ。そして、それを可能にしてきたのが平和憲法であることは、教養あるネパール人なら、だれ一人知らない人はないくらい、ネパールでは周知の事実である。

ところが、その平和国家日本のイメージが、ネパールで今、崩れ始めた。信用を築くには長年の誠実な努力が必要だ。が、信用を失うのは、一瞬のこと。

たとえば、今日7月20日付の Republica 提携 International New York Times は、次のような挿絵を大きく掲載している。ここネパールでも、安倍政権の日本は軍国主義へまっしぐら、と見られ始めたのだ。

しかも、その軍国主義化は、憲法を踏みにじっての暴走によるものだ。安倍政権は、憲法はあっても守らなくてもよい、と世界に向けて宣言し、それを実践しつつあるのだ。

これは、いま憲法制定の最終局面にあるネパールにとっては、最大の反面教師である。その意味では、ネパールにとって、日本はいまでも大いに学ぶべき国家である。まったくもって皮肉なことだが！



■ 平和憲法を踏みにじり暴走するアベ日本軍 (Republica 提携 INYT, 20 July)

【追加】「平和主義と格闘する日本」Republica 提携 INYT 社説(2015-07-21)

「日本人の多くは、アベの選択した道は正しくないと考えている。」

谷川昌幸(C)

2015/07/20 at 23:54 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#), [憲法](#) Tagged with [軍国主義](#), [安倍晋三](#)

## 震災深刻(2):ラニバン付近

カトマンズ西北郊外のラニバン付近(ボラタール西方ナガルジュン山麓)は、地震でかなり大きな被害を受けている。3か月過ぎ、損壊家屋の取り壊しや崩落瓦礫の片づけが進み、半壊家屋の多くはビニールシートやトタンで応急修理されている。それでも震災の傷跡は生々しく、生活再建には大変な困難が伴う。

震災写真はすでに多数報道されているが、3か月後の現況報告として掲載しておく。

### ▼ラニバン付近の現況

- 相対的に崩壊が多い伝統的なレンガ積み家屋





■コンクリート建も多数損壊。小学校は赤(使用不可)判定





## ■半壊家屋を取り壊す少女



【参照】[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)(2015-07-16)

谷川昌幸(C)

2015/07/20 at 10:12 カテゴリー: [経済](#), [自然](#) Tagged with [震災](#), [地震](#), [復興](#)

## [戦争法案可決, ネパールでもトップ報道](#)

戦争法案(安保関連法案)の衆院可決(7月16日)は、ネパールでも大きな話題になっている。安倍政権のへ理屈にもならない議論にうんざりし、はるばるネパールまで逃げてきたのに、友人知人は会うと開口一番「アベは何を考えているのだ？」と質問してくる。いわゆる「反知性」の権化たる安倍、ネパールで質問されても、論理的に説明できるわけがない。

[参照] [自称「右翼軍国主義者」の「積極的平和主義」: 安倍首相の国連演説](#)

ネパールでは今、新憲法制定の山場。制憲議会で採択された憲法草案が発表され、国民から広く意見の聴取が行われている。

その新憲法の柱の一つが、「法の支配」。新憲法で「法の支配」が明確に規定され、幾重にも制度化されることになるに違いない。

ひるがえって日本。憲法の前文や第9条があるにもかかわらず、そしてまた憲法学者の大多数が違憲と言っているにもかかわらず、安倍首相は全く意に介さない。「戦争は平和である」とする安倍ニュースピークにおいては、「法の支配」は「法を支配」である。安倍政権の統治手法は、「法の支配(rule of law)」ではなく、いや最低限の「法による支配(rule by law)」ですらなく、「行政府による法支配」である。

世界最新・最高の新憲法の制定を目指すネパールにおいて、日本のこの憲法状況、政治状況の説明をすることは、恥ずかしくて到底できたものではない。セミナーでは、後ろの方にひっそり隠れて座ることにしよう。

▼ネパール復興Tシャツ(700ルピー)と憲法草案冊子(120ルピー)



谷川昌幸(C)

2015/07/19 at 13:31 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#), [憲法](#) Tagged with [安全保障](#), [安保関連法](#), [戦争法](#), [法による支配](#), [法の支配](#)

## [震災深刻\(1\):バラジュ付近](#)

カトマンズの北西、バラジュ付近は、地盤が悪いらしく、地震被害甚大。様子が一変してしまったところさえある。

新聞等で繰り返し報道されてきたので広く知られているが、直接みると、3か月後とはいえ、やはり衝撃を受け、改めて地震の猛威を思い知らされる。

高層大規模マンションは、まだ新しいのにも見るも無残に壊れている。分譲価格 1500 万ルピーほどの豪華マンションだそうだが、上から下まで居住不能。

ビジュヌマティ川付近には、完全崩壊や、45 度傾いたり、隣のビルに倒れ掛かったりしているビルがかなりある。民家の崩壊も多い。

ビジュヌマティ川から少し南西の山腹付近でも、被害は大きい。倒壊していなくても、よく見ると、柱など構造部分に亀裂が入り、居住不能となった住居がいたるところにある。撤去、再建に多額の費用が掛かることは間違いない。

バラジュの東北、ブダニルカクタ方面や、南西のスワヤンブー方面にも、バラジュほどではないが、一見それとわかる被災建物がいくつもあった。

このように地域によっては地震被害は大きいですが、だからといって観光に支障があるわけではない。たとえば、ブダニルカクタの「[庭園村ホテル](#)」。いまなら、広大な美しい庭園や豪華施設を独り占めできる。他の豪華ホテルも同様。いまこそ、ネパールへ！

#### ▼バラジュ付近の被害建物





【参照】[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)(2015-07-16)

谷川昌幸(C)

2015/07/18 at 13:44 カテゴリー: [経済](#), [自然](#), [旅行](#) Tagged with [震災](#), [地震](#)

## [バクタプル近郊山村の震災警見](#)

7月16日午後、バクタプル～バネパ間の山の中腹にある小村の状況を見てきた。もとよりざっと見ただけだから、見た限りでの印象にすぎない。

カトマンズからバクタプルに向かう途中、ちょうど半ばくらいのところで、できたばかりの立派な道路が1mばかり上下にズレていた。今回の地震で動いた断層とのこと。付近の建物もいくつか壊れていた。

バクタプルを通り過ぎ、バネパに向かって山を登っていくと、小さな村が点在する。この付近でも被害の地域差が極めて大きい。多くが壊れている地域もあれば、全く壊れていない地域もある。すでに地震後3か月たっているので、被害を受けた家はほとんどがトタン波板などで仮修理をするか、近くに仮設住居をつくっていた。

村の学校は、1棟は2階部分が崩落し1階を埋めていた。もう1棟は倒壊はまぬかれたが、危険・使用禁止の表示。そのため空地には板とトタン波板で仮設教室が作られ、使用されていた。しかし、仮設は教室として極めて使い勝手が悪く、維持も大変そうだ。

この村はバクタプル近郊で震源からは少し離れているが、それでもこれだけの被害。もっと震源に近いところでは、被害ははるかに大きいのであろう。こうしたことは、すでに繰り返し報道され広く知られているが、この目で直に見てきたので、具体的事例の一つとして紹介しておく。



■崩壊校舎／仮設教室



■崩壊民家／仮修理&仮設民家



■学校の下村

【参照】[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)(2015-07-16)

谷川昌幸(C)

2015/07/17 at 10:09 カテゴリー: [自然](#), [教育](#) Tagged with [バクタプル](#), [バネパ](#), [地震](#)

[カトマンズ市街の震災「軽微」、観光支障なし](#)

私は、カトマンズ在住でも建築専門家でもない。したがって、以下は、一介の外人短期旅行者が通りすがりに見た、カトマンズ市街の単なる印象にすぎない。科学的総合的評価は、専門家の調査報告をご覧ください。

\*\*\*\* \*\*\*\* \*\*\*\* \*\*\*\*

今日(7月15日)午後、カトマンズ市街をざっと見て歩いた限りでは、建物の地震被害は、表通りからはほとんど見て取れなかった。街は、人々が忙しく行きかい、商品があふれかえり、活気に満ち満ちていた。むろん外からは見えない構造部分に致命的なダメージがあり使用できなくなった建物(特に中高層ビル)も少なくないであろうが、そうしたところには危険表示がしてあるので、注意さえしておれば観光には何の支障もない。見て歩いたのは、以下のコース。

タメルで両替後、タクシーでディリバザールへ。

ディリバザール(ガッテクロ、マイティデビ) → バグバザール → アサン → インドラチョーク → 旧王宮・バサンプル → ニューロード → スンダラ → バスパーク

両替に立ち寄った観光基地タメルは、平常通り。ヒマラヤ銀行の建物の壁にはごく小さなヒビが少し入っていたが、地震によるものかどうか、わからない。わが自宅マンションのヒビに比べたら、はるかにましな程度。隣の寺院は全く無傷。円安はこたえるが、タメル観光には何の支障もない。

ディリバザールのガッテクロ、マイティデビ付近は地盤が悪いらしく、崩壊が数棟みられたが、以前いくどか通りがかり、古いので絶対壊れるに違いないと思っていた家々は、すべて無事であった。この付近でも、よく注意していなければ、震災被害には気づかない。

バグバザールにも古い建物が多いが、外から見た限り被害なし。知人の古い古い5階建ての家屋も、無傷だった。

アサンやインドラチョークでも、以前から自然崩壊しつつあった建物が少し崩れたくらいで、外から見る限り大被害なし。いつものように買い物客らで大混雑していた。平常通り。

これら市街地に比べ被害が大きかったのが、旧王宮とその周辺の寺院。多くが全壊、半壊状態だったが、それらは庶民の日常生活には直接関係はない。また観光に大きな支障が出るほどのことでもない。以前から自然崩壊しつつあった古い建物の崩壊が少し早まっただけ。すべて形あるものは壊れる。

スンダラではビムセン塔が倒壊し、犠牲者が出た。大参事には違いないが、行って見て驚いたのは、壊れたのは塔だけで、周囲は見るかぎりでは全くの無傷ということ。塔の周りの店やレストランは平常通り営業し、大繁盛していた。(ただし、少し離れた巨大商業ビル[CTCビル?]は、手抜き工事だったらしく、全面に大きな亀裂が入り、使用不能のように見えた。)

このように、カトマンズ市街を表通りから一瞥した限りでは、被害は局所的であり、それらを除けば、ほとんど気づかないほど被害は全体としては「軽微」であった。したがって、観光に来て何の不安も支障もないことは、いうまでもない。

最後にもう一度念を押しておくが、以上は、外人短期旅行者が外から見て感じた街の単なる印象にすぎない。科学的総合評価は専門家の調査報告でご確認ください。

▼古い建物健在



■マイティデビ／バグバザール



■バグバザール／アサン



■ インドラチョーク／スンダラ(商業ビル6Fより)



■ スンダラ

▼ 部分崩壊



■ ダルバル校(ラーニポカリ向かい)／アサン



▼超近代社会ネパールの繁栄(ネパール航空前付近)



【参照】

他地域における震災状況⇒⇒[震災深刻](#)

[バクタプル近郊山村の震災警見](#)(2015-07-17)

[震災深刻\(1\), バラジュ付近](#)(2015-07-18)

[震災深刻\(2\): ラニバン付近](#)(2015-07-20)

谷川昌幸(C)

2015/07/16 at 14:01 カテゴリー: [社会](#), [旅行](#) Tagged with [震災](#), [地震](#)

## [太陽光蓄電池式LED照明, 激増中](#)

ネパールでは、小型の太陽光発電が激増している。乾季, 雨季を問わず, 連日, 長時間停電なので, いまや当地の生活必需品となったようだ。後発国の技術的優位。モバイルに続き, 太陽光発電でも, ネパールは日本を追い越し, はるか先を疾走しつつある。

太陽光発電でも特に目立つのが, 蓄電池式LED照明。いたるところにあり, なお激増中。

が, よいことばかりではない。近代合理主義が「もっと光を」と叫んだように, 近代の光は効率本位で, 文化的暖かさが無い。LEDは暖色も発光させるが, 近代化を急ぐ先行ネパールでは効率本位の白色光ばかり。どぎついLED光が, いたるところで目を射る。

私のネパール初体験は, 夜間フライトで上空からカトマンズを見たこと。盆地全体が, 電燈の暖かくやわらかい光で, やさし〜く包まれていた。

それが、少しずつ蛍光灯に置き換えられ、そして今、冷たい合理主義の反文化の光によって急速に取って代わられつつある。

それともう一つ、気がかりなのは蓄電池の処分。ネパールのLED照明の多くは蓄電池式なので、しばらくすると蓄電池が大量に廃棄され始める。日常生活ゴミですらまともに処理されていないのに、廃棄蓄電池をどう処分するのだろうか。文化もさることながら、現実生活の方も心配だ。ガンジス源流域に大量放棄といったことにならなければよいが。



■トリブバン大学の合理的LED光／LED街灯とアパートの太陽光発電版(7月15日早朝)

谷川昌幸(C)

2015/07/15 at 11:05 カテゴリー: [経済](#), [文化](#) Tagged with [環境](#), [蓄電池](#), [LED](#), [太陽光](#)

## [キルティプル南西低地, 少し被害](#)

キルティプルの丘の外周南西低地は、地質が悪いらしく、少し地震被害が見られた。完全崩壊ではなく、部分的損傷。

それでも寺院境内や空き地には、テントやトタン避難小屋が多数設置されている。おそらく余震を恐れてのことだろう。この辺の家屋の多くは、地震が無くても危険なほど古く、人々が警戒するのも無理はない。

カトマンズ市内の地質の悪いところ、たとえばアサン、インドラチョーク付近は被害甚大だそうだ。どのような状況か、気になるところだ。

なお、キルティプルには観光客は全く来ていない。昨日のタイ航空もガラガラだった。観光業は大きなダメージを受けているのではないだろうか。



■ 震災被害建物、橙色標識は OXFAM / 中国提供テント



■ OXFAM 頑張るがこれらは自然崩壊

谷川昌幸(C)

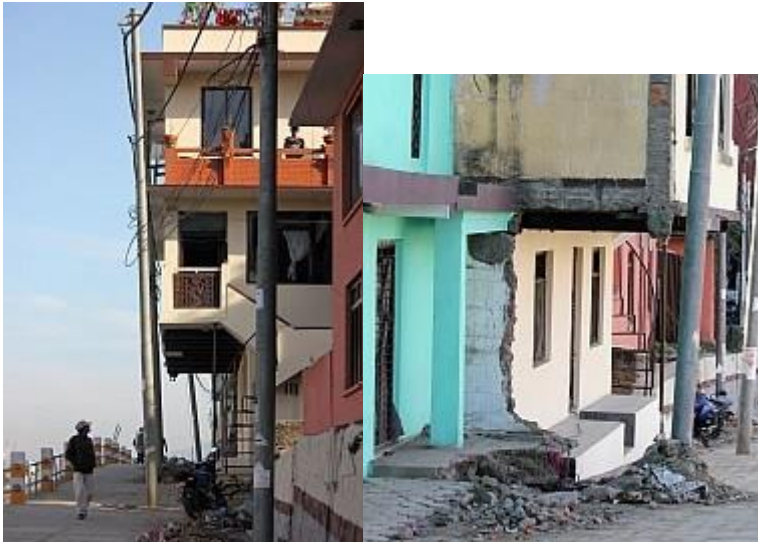
2015/07/15 at 01:10 カテゴリー: [社会](#), [自然](#) Tagged with [震災](#), [地震](#)

## 震災なきがごときカトマンズ

トリブバン空港到着後、タクシーでキルティプルに来た。驚いたのは、少なくとも見た限り、見えた限りでは、震災はほとんど感じられなかったこと。

4月地震で村にも街にも被害が出ていることは事実だが、連日の報道から想像していたほど、少なくともカトマンズの街には被害はなさそうだ。タクシーから見た限りでは、倒壊したり大きく損傷した建物は、沿道には、タパタリ近くの寺院を除けば、ほとんど見られなかった。

空港ビルは無傷、[絶対崩壊と思っていたマイティガルの半宙吊り建物](#)(下図)も無事、反対側の古い古典調官庁群も見た限りでは健在。



■ 2015年2月現在

キルティプルも同様。ホテルは丘の急斜面にへばりつくように立っており、地震があれば丘の下まで崩落はまぬかれないと恐れていたのに、なんとひび一つ入ることなく、平常通り営業していた。

キルティプルで最も心配していたのが、寺院とその周辺の古い建物群。こちらはダメだろうかと覚悟していたが、すべて無傷、ひびすらほとんど見られなかった。

といっても、被害が全く見られなかったわけではない。丘の上の、地震以前から自然崩壊しつつあった古い、古～い建物は、いくつか部分崩壊し、近くの広場にテントや仮設避難所が設営されていた。キルティプルで避難生活をしているのは、40家族ほどだそうだ。

震災は地域差が大きいらしい。キルティプルのすぐ近く、古い街並みが見事な愛すべきパンガ。ほぼ全滅だそうだ。近くのマツェ村も多くの家が倒壊とのこと。本当だろうか？

それにしても、雨季ど真ん中、水は有り余っているはずなのに、長時間停電とは、不思議な国だ。

#### ▼キルティプルの寺院と民家と避難所(2015-7-13)





谷川昌幸(C)

2015/07/14 at 11:56 カテゴリー: [社会](#), [自然](#) Tagged with [震災](#), [地震](#), [救援](#)

## [タイ南部テロと厳戒スワンナプーム空港](#)

何年かぶりにタイ航空で訪ネ。中国各社との競争激化のせい、往復4万円+燃料費と、ずいぶん安くなった。

乗り継ぎのスワンナプーム空港は厳戒。身体検査は厳しく、どこに行っても監視カメラで監視されている。

タイ政治は難しい状況にあるようだ。軍政だし、最近では亡命ウイグル族の強制送還を内外から厳しく批判されている。

関西空港搭乗口でもらった12日付 Sunday Nation によれば、7月10-11日、タイ南部8か所で爆破テロがあり、6人死亡、11人負傷。積年のムスリム系抑圧や中国寄り軍政への不満が高まっているのではないか？



■客を見守る＝見張る監視カメラ

その一方、空港ビル内はますます品がなくなってきた。有名ブランド店、上客専用ラウンジ、高価レストランばかり。いやそればかりか、空港必需の時計(時刻表示)ですら、探し回らなければ、見

つからない。客は皆、オメガかロレックスを着けているということらしい。タイ庶民がこんなところに来たら、どう思うだろうか？

結局、空港内では水1滴飲まず、1円も使わず、カトマンズ便に乗ることになってしまった。



■ブランド店ばかり

谷川昌幸(C)

2015/07/14 at 00:21 カテゴリー: [政党](#), [民族](#) Tagged with [タイ](#), [空港](#)

## [京都の米軍基地\(75\): 議員質問の制限](#)

京丹後市議会 6月定例会において、議長が米軍基地に関する質問をしていた平林議員の発言を途中で遮り、質問範囲の制限を宣言した。要旨は以下の通り(正確には議事録参照)。

「質問は当該団体の行政を対象としますので、この範囲で行われる必要があります。このため、たとえば防衛、郵政(?), 外交, 司法, 国会に関する事項については、質問することは出来ません。しばしば問題になるのは、米軍や自衛隊の基地が所在する地方議会において、国の防衛政策や日米安保条約の是非等が議論・論議の対象となることです。この場合、基地所在の結果として、たとえば騒音が激しいとか青少年の非行の誘因となるとか、その対策等を議論するのであれば差し支えないが、騒音や青少年非行の根源として国の防衛政策の是非を論議することは出来ません。それは国会がやるべきことであり、地方議会の守備範囲を超えるからです。」

「[安保法制は]まだ国会で議論されており、決まっておきませんので[京丹後市議会では質疑すべきではない]」(内引用者補足)。

これは面白い。一昔前の行政学者も真っ青の御用形式論理だ。でも、日本国憲法の定める「地方自治の本旨」って、本当にこんなものなのかな？

▼京丹後市議会 平成 27 年 6 月定例会 (質疑視聴は下図右リンクをクリック)

第 2 日(6 月 18 日)

平林智江美(日本共産党)

1 安保法案と米軍基地について

(1)戦後70年節目の時、まちがった戦争という認識はあるか

- (2) 安倍首相の暴走で戦争する国にしようとしている。安保法案について市長の考えを聞く
  - (3) 米軍基地が安保法案により市民にとって安心安全とはいえないが
  - (4) 米軍関係者の居住地が網野島津にできると聞く。弥栄は通過地域として不安の声が出ている。
- 弥栄住民への説明対応は



[質疑視聴](#)

### 第3日(6月19日)

森 勝(日本共産党)

- 1 戦争法案と「集団的自衛権」について
  - (1) 戦争法案のネライとその目的について
  - (2) 戦争法案と憲法9条の関係について
  - (3) 集団的自衛権行使は自治体、国民に何をもたらすのか
- 2 宇川米軍基地と米軍居住地問題について
  - (1) 戦争抑止論と沖縄の負担軽減について



[質疑視聴](#)(7分経過付近の中間部分割愛)

谷川昌幸(C)

2015/07/09 at 18:43 カテゴリー: [議会](#), [軍事](#), [憲法](#), [民主主義](#) Tagged with [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [地方自治](#), [安保法制](#), [京丹後](#)

## [グルメ鳥獣との攻防](#)

野生の鳥獣は、人間以上にグルメだ。作物が熟した頃を見計らい、やってきて、賞味する。人間なら「もったいない」と思い、多少へたの方でも食べるが、鳥獣は本能に正直に最も美味しいところだけ次々と食べていく。エライ！

が、農民の側は、たまったものではない。あれこれ防御の知恵を絞るが、敵もさるもの、しばらくするとなれ、突破されてしまう。反自然農法で行くのなら、奴らを皆殺しに出来るが、いまや鳥獣人権保護のご時世、そうもいかない。

そこで、農民は泣く泣く専守防衛を図らざるをえない。が、これにはべらぼうに高い経費と途方もない労力が必要だ。勝ち目はない。まったくもって因果なことだ。



■ 柵で守られた水田と、それを見守るお地蔵さん(他の仏様かもしれない)



■ キュウリを網で防御／カラスに食われたキュウリ

谷川昌幸(C)

2015/07/08 at 17:44 カテゴリー: [自然](#), [農業](#) Tagged with [自然保護](#), [動物保護](#)

## 制憲特急, 快走か迷走か

### 1. 新憲法制定公布は8月5日?

制憲議会は、7月2日から「特急手続き(fast-track)」ないし「超特急手続き(super fast-track)」によ



る「憲法第一草案」審議を開始した。新憲法の制定・公布は、8月5日までにとのことだが、いまの状況では、そうすんなりとは行きそうにない。

## 2. 「制憲特急」への期待

「制憲特急」を最も「期待」しているのは、震災復興援助を表明した援助側諸機関と、巨額復興援助に関与するネパール側関係者。たとえば、アショカ・ディグジットは、与野党とも「特急手続き」で憲法を制定しなければ外国援助が得られないと恐れている、と指摘している(\*1)。

ちなみに、オーリ UML 議長も、訪ネ印記者団に対し次のように語っているが、これは、いつもの枕詞としてのナショナリズムの装飾を取り除けば、ディグジットの指摘するような外国援助への期待の表明とみてよいであろう。

「憲法草案の採択後、ただちに挙国一致政府を組織するつもりだ。援助諸機関も、必要な資金を必要なとき、より多く拠出すると約束してくれている。むろん、立案はネパール側でなければならない。ネパールは主権国家であり、主権国家として行動する。復興は憲法制定とはかかわりなく進められる。大震災は、ネパールの全政党を結集させた。イデオロギーにかかわらず救援・復興を進めていくことについては、すべての政党が合意している。」(\*1)

## 3. 「制憲特急」への反対

援助諸機関と政府与野党が「制憲特急」を走らせようとするのに対し、脱線だとして、その阻止に回ったのが最高裁。すでに「[特急手続き](#)」[停止命令\(6月19日\)](#)を出しているが、それに加え、他にもいくつか反対の動きを見せている。

その一つが、「憲法第一草案」に規定の「憲法裁判所」設置への反対。最高裁は、もし別立て「憲法裁判所」を設置すると、司法権の独立が危うくなるし、司法の混乱も起こると主張している。

最高裁のこれらの抵抗は、憲法制定・新体制成立で既得権益を失うことになる様々な勢力や有力者により陰に陽に応援されている。最高裁も、一つの政治勢力として動き始めているような感じさえする。

これに対し、「制憲特急」側は、あれこれ対抗策を考えている。

(1)現在の RKP・シャハ最高裁長官が7月8日で退任し、次は K・シュレスタ判事が長官となる。この長官交代に期待する。

(2)最高裁に、「特急手続き」停止命令の取り消しを訴え、認めさせる。

(3)憲法第 138 条の改正。

(4)制憲議会を、州が確定するまで存続させる。

## 4. 「制憲特急」完走できるか？

「制憲特急」は、大震災の非常時が生み出したものに間違いはなく、これを逆にいえば、大震災が

遠ざかるにつれ、その必要性や正当性も減衰していくと見ざるをえない。「制憲特急」が完走できるか否かは、ここ数十日にかかっている。目が離せない。

#### [未解決の主要問題]

- (1)州の区画と名称
- (2)前文に記述する改正禁止事項
- (3)改宗の権利の扱い
- (4)議会議員の1／3を女性枠とするか？
- (5)比例制議席配分に最低得票率を設定するか？
- (6)国籍取得要件
- (7)帰化国民の大統領，首相，議会議長，最高裁長官への選任禁止の可否
- (8)憲法制定後の裁判官留任の可否
- (9)地方選挙の実施時期

#### [参照]

- (\*1)Ashok Dixit, "Post-quake, Nepal politicians, ministers admit to being under pressure to deliver Constitution quickly," Nepal National (ANI), 6th July, 2015
- (\*2)"Four parties for delivering statute before August 5," Himalayan, July 4
- (\*3)"RPP-N ends obstruction after Sitaula clarifies on religion related provision," Himalayan, July 4
- (\*4)NABIN KHATIWADA, "JUSTICES WANT MAJORITY ON JC, OPPOSE CONSTITUTIONAL COURT," Republica, 05 Jul 2015
- (\*5)"SC full court asks CA to revoke constitutional court provision," Ekantipur, JUL 06
- (\*6)KAMAL DEV BHATTARAI, "Parties mull options to decide state delineation," Ekantipur, JUL 05

谷川昌幸(C)

2015/07/07 at 20:45 カテゴリー: [司法](#), [憲法](#), [政党](#) Tagged with [震災](#), [fast-track](#), [制憲議会](#)

## [「新しい国へ」, オノゴロ島から?](#)

オノゴロ島の風景(2015年5月)。神国はここから始まり、いままたここから「[新しい国へ](#)」「[美しい国へ](#)」と生まれ変わるのだろうか？



谷川昌幸(C)

2015/07/03 at 20:16 カテゴリー: [宗教](#), [憲法](#), [政治](#) Tagged with [オノゴロ](#), [神社](#), [美しい国](#), [安倍晋三](#)

## [CDC 憲法草案受理, 制憲議会で審議開始](#)

憲法起草委員会(CDC)作成の憲法草案が7月30日夜, 制憲議会ネバン議長に提出された。同夜の制憲議会(CA)本会議では, マデシ連合(サドバーバナ党など5党)が草案プリントを破り抗議し

たが、CDC 憲法草案は受理され、7月2日から制憲議会においてこの「第一草案」に基づき審議し、最終的な憲法案を作成することになった。

[憲法制定日程]

6月30日：制憲議会，CDC 憲法草案受理。ホームページで一般公開し，国民の意見聴取開始

7月2日：制憲議会において「第一草案」審議開始

7月9～12日頃：国民からの意見聴取終了

7月末～8月初旬：最終的な憲法案を作成し制憲議会において採択。**新憲法の制定公布。**

▼ネパール憲法 2072年 第一草案

अध्याय	पृष्ठ
प्रास्ताविक	१
अध्याय-१	१
प्रास्ताविक	१
अध्याय-२	३
संविधानसभा	३
संविधानसभाको कार्य	५
अध्याय-३	७
राज्यका विधिको विधान, शक्ति तथा संरक्षण	७
अध्याय-४	१३
राज्यको संरक्षण र राज्य शक्तिको विवरण	१३
अध्याय-५	१५
राज्यको रक्षण र संरक्षण	१५
अध्याय-६	२१
संविधान सभामाथको	२१
अध्याय-७	२३
संविधान सभामाथको	२३
अध्याय-८	२५
संविधान सभामाथको	२५
अध्याय-९	२७
संविधान सभामाथको	२७
अध्याय-१०	२९
संविधान सभामाथको	२९
अध्याय-११	३१
संविधान सभामाथको	३१
अध्याय-१२	३३
संविधान सभामाथको	३३
अध्याय-१३	३५
संविधान सभामाथको	३५
अध्याय-१४	३७
संविधान सभामाथको	३७
अध्याय-१५	३९
संविधान सभामाथको	३९
अध्याय-१६	४१
संविधान सभामाथको	४१
अध्याय-१७	४३
संविधान सभामाथको	४३
अध्याय-१८	४५
संविधान सभामाथको	४५
अध्याय-१९	४७
संविधान सभामाथको	४७
अध्याय-२०	४९
संविधान सभामाथको	४९

谷川昌幸(C)

2015/07/01 at 14:44 カテゴリー: [議会](#), [憲法](#) Tagged with [制憲議会](#)